

苫小牧市男女平等参画情報誌

ふり〜む

2012・3月
Vol.16



目次

女性に対する暴力をなくす運動！	2
市長が語る男女平等参画社会	3
平成23年度NWE Cフォーラム参加報告	4
女性の人権講演会 《テーマ》自立援助ホームの子どもたち	5
ハローワークマザーズコーナーの紹介	6
男女平等参画講座・女性のエンパワーメント講座	7
女性センター情報コーナー	8

「女性に対する暴力をなくす運動」

内閣府では、毎年11月12日～11月25日を「女性に対する暴力をなくす運動」の強化週間としています。市では、これに合わせ今年度初めて、男女平等参画社会の形成の大きな阻害要因となっている、DVや性犯罪などの女性に対する暴力をなくす運動の啓発活動を実施いたしました。

平成23年11月16日には市内の大型ショッピングセンターにご協力をいただき、出入り口付近で6団体45名がパープルリボンを胸につけ、標語入りポケットティッシュ1000個を配布し、暴力が絶対にあってはならないことをたくさんの人に呼びかけました。

また、子育て支援課窓口や、女性センター（窓口・トイレ）に、ポケットティッシュを置き、市役所や女性センターにおいても啓発活動を継続しました。

標語入りポケットティッシュ



女性センタートイレに設置



大型ショッピングセンターにて啓発用ティッシュペーパー配布
—苫小牧民報社撮影—



女性の相談窓口

— 1人で悩まずにご相談ください —

	相談機関	電話番号	相談時間
配偶者等からの暴力 (DV)	子育て支援課（1階8番窓口）	32-6369 32-6111（夜間・休日の緊急連絡先は市役所代表番号）	平日8:45～17:15
	道立女性相談援助センター（配偶者暴力相談支援センター）	011-666-9955	平日9:00～17:00 （年末年始を除く）
	胆振総合振興局環境生活課（配偶者暴力相談支援センター）	0143-22-5286	平日9:00～17:00 （年末年始を除く）
	苫小牧警察署	35-0110	
雇用問題・セクハラ等、 職場のトラブル	ウィメンズ結（民間シェルター）	32-0100	平日10:00～16:00 （年末年始を除く）
	苫小牧総合労働相談コーナー 苫小牧市港町1丁目6番15号 苫小牧港灣合同庁舎 苫小牧労働基準監督署 2F	33-7396	平日9:00～16:30 （年末年始を除く）
	北海道労働局雇用均等室 札幌市北区北8条西2丁目1番1号 札幌第1合同庁舎 3F	011-709-2715	平日8:30～17:15 （年末年始を除く）

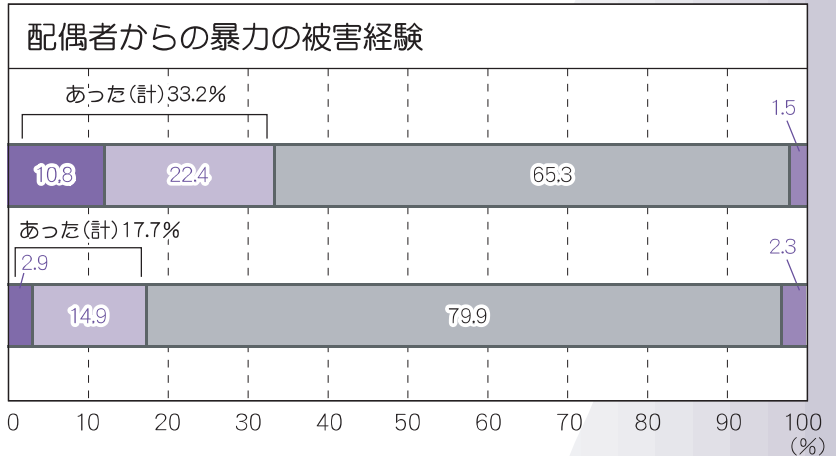
データ Data

女性に対する暴力をめぐる状況

—◎— 配偶者からの暴力 —◎—

女性の10.8%、男性の2.9%は、これまでに配偶者（事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含む）から身体的暴行、心理的攻撃、性的強要のいずれかを1つでも受けたことが「何度もあった」と答えています。

- 何度もあった
- 1、2度あった
- まったくない
- 無回答



- 備考： 1. 内閣府「男女間における暴力に関する調査」（平成20年度）より作成。
 2. 身体的暴力：なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた。
 3. 心理的攻撃：人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。
 4. 性的強要：嫌がっているのに性的な行為を強要された。

男女平等参画講座(企業対象)

「市長が語る男女平等参画社会」を開催しました

1月20日、苫小牧男女平等参画推進協議会と苫小牧市との共催で企業対象の男女平等参画講座を開催しました。

【講師】 苫小牧市長 岩倉博文

出席者：16の企業等から21名の参加



意見を交換する岩倉市長と参加者

苫小牧男女平等参画推進協議会と苫小牧市は、岩倉市長による企業の経営者や担当者向け男女平等参画講座「市長が語る男女平等参画社会」を初めて開きました。

岩倉市長は、先進国で進む男女平等参画社会の概要や、苫小牧市の進捗状況を解説しながら、苫小牧市男女平等参画推進条例（2007年施行）の事業者への責務について、企業経営者や担当者への理解を求めました。また、「男女平等都市宣言」について、道内第1号を目指して、前向きに検討していることを明らかにしました。

・—・出席者からの意見・—・

企業間では男女平等の格差を感じます。中小企業は、女性従業員に十分な育児休暇や出産休暇を与えるのは難しい現状がある。

育児や親の介護の負担が女性に掛かり、退職を余儀なくされている。共稼ぎの男性が家庭生活に参画する実態調査を希望します。

ワークライフバランスが今非常に大きなテーマになっています。女性の人材活用を念頭にワークライフバランスを保つ努力をして、地域に貢献していきたい。

参加報告

独立行政法人 国立女性教育会館(NWEC)主催
平成23年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」

平成23年10月21日(金)～10月23日(日) 報告者：男女平等参画課長 小野 千恵子



女性教育会館講堂

平成23年度NWECフォーラムが男女共同参画社会の形成を目指し、研究や実戦活動を行っている個人・団体等が、全国から約900人参加のもと開催されました。苫小牧からは、苫小牧男女平等参画推進協議会の会員2名と共に、当課職員が初めて参加しましたので、報告いたします。

1日と2日目には57件(全国からの応募50件、会館提供6件、文部科学省提供1件)のワークショップが実施されました。ワークショップの本数は例年と変わらず、内容も充実し参加者の熱気に溢れた3日間でした。

発表されたワークショップの中で、当市でも取組たい情報が入手でき、次年度からの事業に活かせないかと持ち帰りました。男女平等参画推進の手法を全国の先進都市に学び、市民へ情報提供をさせて頂くことで、更なる男女平等参画の推進に繋がると感じました。

紹介します

ワークショップの事例

成功する方針決定過程への女性の参画事業(女性リーダーの育て方)

国の第3次男女共同参画基本計画の筆頭に位置づけられている〈政策・方針決定過程への女性の参画〉は、国を挙げて取り組むべき課題となっています。この課題に取り組んだ事例を紹介します。

「審議会」「リーダー養成」などの言葉を入れない、目的を表に出さない等の広報戦略を用いたり、ジェンダーを前面に出さない等の仕掛けをし長期講座を実施したことが成功し、2年間で46名の受講生を生み出し、今回のワークショップをセンター(指定管理者)職員1名と受講終了者6名の計7名で企画・発表を実現させました。参加したメンバーが、この講座で高めたエンパワーメントを基に、あらゆる分野への参画が期待できる有効な取組と感じました。



展示ワークショップの一例(東北地方被災地避難所)



ワークショップの様子

なぜ、男女共同参画は進まないか

発表された事例では、「男女共同参画推進条例」の制定、男女共同参画プランの策定、男女参画推進委員会の設置、男女共同参画センターの開設など男女共同参画の推進体制はかなり進んだ中で推し進められています。テーマは、各町内会の運営を担う役員の男女共同参画についてでしたが、地域において男女共同参画が進まない問題点がありました。

- ・自治会のマンネリ化、無関心
- ・男性の理解がない
- ・役員の交代がない…考えが変わらない
- ・女性自身が役員を引き受けたくない…一歩下がっているほうが楽
- ・女性は、世帯主の代理として参加
- ・女性は、専門部までの登用…会長等は男性

参加者からは進まない理由がどの地域も同じで、全国共通の課題となっていることが発表されました。地域づくりの中に市民意識と行政の施策をどう活かすかまた、意識とシステムの乖離をどう埋めていくかが課題であると感じました。

シンポジウム 「災害・震災復興と地域づくりー男女共同参画社会への展望」

最終日のシンポジウムは、「災害・震災復興と地域づくりー男女共同参画社会への展望」をテーマに3人のシンポジストにより、行政、NPO、ジャーナリズムのそれぞれの立場から、問題提起がなされ、参加者からも活発に質問や意見が寄せられ、男女共同参画の視点に立った地域づくりに関する議論を中心に、充実したシンポジウムとなりました。

	山形県知事 吉村 美栄子氏
シンポジスト	コミュニティ・サポートセンター 神戸理事長 中村 順子氏 河北新報社論設委員長 鈴木 素雄氏

コーディネーター	立教大学教授 萩原 なつ子氏
----------	----------------

